



## 編集後記

その昔、まだ筆者が嘴の黄色い学生だった頃に、たまたま絵の手ほどきを受けていた先生に言われたことがある。

「大学などというのは、言ってみれば執行猶予みたいなもので、社会に出る前に4年間、そこで過ごしたことが人生の深みや奥行になるのだよ」

この教えを忠実に守った筆者は、大学時代に大いに青春を謳歌した（しすぎた感否めない）が、確かにこの年になってみると講義や実技で学んだこともさる事ながら、そこで与えられた時間に読んだ本やら、観た映画やら、出会った人々やらが人生の宝物になったことは確かである。

◆  
そこで今の学生諸君はと見れば、新型コロナウイルスの影響でオンライン授業とやらが横行し、ほとんどキャンパスに足を踏み入れることのない状況なのだという。

大学側もマスクやらシールドやら

と様々な創意工夫を凝らして防護策を講じ、何とか授業を再開させている小学校・中学校・高等学校とは違い、座して事態の解決を待っている風情である。

◆  
確かに、下手をすれば数万人の学生が集まることもあるキャンパスである。クラスターが発生すれば大惨事に発展しかねないことも確かだが、そこは最高学府である。しっかりと意識喚起を行い、個々の学生が感染予防対策の担い手となって円滑な学校運営が行えるようになればと願うのは理想論なのだろうか。

◆  
それともいまの大学生諸兄諸姉には、そうした感染予防の意識を持って行動するだけの知性・教養が欠落しているとも言えるのだろうか。

◆  
落語の世界では、かつて難しい問題が発生すると、長屋の八つあんな熊さんたちは、「あそこの角の下宿屋に住んでいる学生さん」にお知恵を拝借したものなのだ。

様々な大学が存在するとしても、

少なくとも受験という難関を突破して入学してきた学生たちである。もう少し自分の大学の学生たちを信用してはいかがだろうか。

◆  
そういえば、オンライン授業というが、大学の講義というのは一方的に教授や講師という「教える側」から発信される内容を受け取るだけのものではないはずである。

◆  
前出の絵を教えていただいた先生にこう言われたことを思い出した。「大学は授業に出て学習するところではなく、自分でテーマを見つけて勉強する場所なのだ」

◆  
つまり、小学校、中学校、高等学校では「学習」であるが、大学生になったら「勉強」しなさいという示唆であった。

◆  
学生諸君、対面授業（対面講義）が始まったら、教授・講師にぶつける質問がたくさん用意できるように、「在宅」でしっかり「勉強」していただきたいと願う。

（溪）

# 月刊 公論

10月号 第53巻10号

令和2年10月1日発行 毎月20日発売  
本体価格1,000円(税別) 送料87円

発行人 大中 吉一 編集人 林 溪清  
発行所 株式会社財界通信社  
〒160-0008 東京都新宿区四谷三栄町10-12 ボナフラワービル  
TEL.03-5379-5611(代) FAX.03-5379-5616  
印刷所 株式会社廣済堂  
取次店 日本出版販売/楽天ブックスネットワーク

- 直接ご購入をご希望の方は、本社までお問い合わせ下さい。
- 万一、乱丁、落丁などの不良品がございましたら、お取り替えいたします。